



「被災地のこと知りたい」

学用品贈呈、炊き出しも

甲斐・竜王南小の児童たちが東日本大震災で被災した宮城県石巻市の門脇小児童に、各家庭で集めた学用品を届ける。9、10の両日、竜王南小児童の代表者が石巻市を訪問。ノートなどを手渡しほか、介護施設で炊き出しや清掃ボランティアを行う。

石巻市を訪れるのは、2、5年生の5人。竜王南小の学校評議員を務める込山伸一さん(40)が、石巻市を中心に被災地支援を続けている「全国介護者支援協議会」(本部・東京)メンバーである緑で、同校に支援を持ち掛けた。

同校は2月下旬から、全校児童に呼び掛けて鉛筆やノート、絵の具など段ボール4箱分の学用品を集め、模造紙に門脇小児童に贈る応援メッセージをまとめた。

8日には石巻市を訪れる児童5人に学用品などを託した。5年石田光希君(11)は、「一度、自分の目で被災地を見てみたかった。これからも支援

を続けたいし、石巻で見たことをみんなに伝えたい」と話している。

5人は9日に石巻市へ出発。同市内の介護施設「めだかの楽園」を訪れ、炊き出しなどのボランティアを行う。10日は、全国のコミュニティFM局に配信される特別番

組に合わせて、「めだかの楽園」で門脇小児童に学用品を手渡す。

門脇小は海岸から1キロほどの内陸側で、大震災では津波と火災に見舞われ校舎が全壊した。現在、児童は市内の中学校に間借りして学んでいる。

〈笠井憂弥〉

竜王南小児童、石巻へ

8日には集めた学用品や手紙を、宮城県石巻市を訪れる児童に託した

甲斐・竜王南小